

「エコ関西」インタビュー！特商法処分のその後

①

前回(12月17日号)3面)に続き、3月に大阪府から特商法処分を受けたエコ関西(大阪市北区)の平田文二(お客様相談室室長)に、処分の対応やその後の取り組みなどを聞いた。

営業への注意 事務サイドからも

「処分が出るにあたり、コンプライアンスの再徹底を図る目的で、宣伝講習販売や訪問の企業が複数加盟する健康関連取引適正事業団(以下健取団)の助けを借りた。」

「立入検査を受けた時は、まだ健取団の会員ではなかった。取引のあるメーカーから紹介をもらい、私と(末川吉則)代表で赤堀かに引かかるチラシ(真)理事長のもとを渡していたことは、

を訪れ、状況を話して助言をいただくなどした。その後の大阪府とのやり取りや事業改善計画の策定、社員の教育研修などでも力添えをいただいた。最近の処分は業務停止期間が長めに与えられたが、最終的に3カ月となった。健康食品が対象から外された件は、大阪府の担当課の方の理解も大きかったと感じている」

最近の処分は業務停止期間が長めに与えられたが、最終的に3カ月となった。健康食品が対象から外された件は、大阪府の担当課の方の理解も大きかったと感じている」

「社内ルールの見直しは、先に話した通り、合意の部分で大きい」

チラシ等の作成 営業現場に禁止

「月2〜3回の幹部会の中で、『ここから30分はコンプライアンスのことだけ話そう』という場を設け、そこで懸案事項や対策などを話し合っている。意識と実際の取り組みが大きく変わったと思う。何より一度、処分原則禁止し、本社で作成したものだけ使うよう剣さの度合いが全く違

健取団へ加盟 全社員に教育研修

コンプライアンスへの意識「全く変わった」

「のは、事務サイドも研立入検査を受ける前かうにルールを変えた。以前は、データで送って現場でプリントしてライアンス上の話し合は幹部の参加を予定している。一方、まだ返品の上は以前の7割くらい。会場の対策として、席の間を2対ずつ空けたり、営業中も窓を開けたりしている。スタッフはマスク、シールド、検温、消毒を欠かしていない」(お客)

懸案、対策を議論

「やはり幹部会の中で取り上げていたが、どうしても営業中心の話になりがちだった。そのツケが回ったという反省もあって、委員会を立ち上げた」

「委員会の参加者の

で、会場の抜き打ちチェックなども着手した」

「代表のほかは営業部門の部長と次長、管理部門の次長、お客様相談室の責任者を兼ねる私。この5人は必ず出席する。機会があれば、赤堀理事長にも参加を願いたいと考えている」

再開後の来場数 コロナで半分に

「今後、予定するコンプライアンス上の取り組みを伺いたい。基本路線としては、健取団の指導のもとで、会場の席数を通常の半分に減らしているが、大阪府の主催するコンプライアンスセミナーに、(既存客が対象の)『友の会』の集客と売上は以前の7割くらい。会場の対策として、席の間を2対ずつ空けたり、営業中も窓を開けたりしている。スタッフはマスク、シールド、検温、消毒を欠かしていない」(お客)

「一方、まだ返品の上は以前の7割くらい。会場の対策として、席の間を2対ずつ空けたり、営業中も窓を開けたりしている。スタッフはマスク、シールド、検温、消毒を欠かしていない」(お客)

「委員会の参加者の

●本取材記事(原寸)は、訪販ニュース社からの要請にて、株式会社エコ関西 代表取締役：末川吉則氏のご厚意を以て取材に協力して頂いたものです。末川吉則社長及び、平田文二課長(兼お客様相談室長)のご理解、ご協力に感謝致します。 2020.12.18 (注)健康関連取引適正事業団